

令和4年度 鳥取 YEG スローガン



令和4年度
政策提言書

令和4年度鳥取YEGスローガン

One × One
一つずつ 一歩ずつ 一人ずつ



鳥取商工会議所青年部
YEG Tottori Young Entrepreneurs Group

ご挨拶

鳥取商工会議所青年部は、令和4年度200名の仲間と共に【One × One ～一つずつ 一つずつ一人ずつ～】のスローガンのもと、地域の商工業の発展のために様々な取り組みに挑戦してまいりました。

新型コロナウイルスの出現により、社会全体が我々の想像以上のスピードで変化しています。我々も様々な局面において更なるスピード感をもって、より良いアップデートをしながら先導者たる気概で前に進んで行かなければなりません。

その想いを胸にこの度【袋川公園化プロジェクト】、【「鳥」取県構想】の2つの政策提言をさせていただく運びとなりました。

1つ目の【袋川公園化プロジェクト】は、鳥取の代表的な景観である袋川の桜土手の川沿いに広く座って寛げるスペースを作成しようというものです。このスペースをすることによって袋川を公園のように見立て、さまざまな価値を作り出すことができます。中心市街地の活性化という大きな課題に、実現性があり費用対効果が期待できる方策で、単に施設を作るということでなく、その後の利活用にまで踏み込んだ提言にまとめています。

2つ目の【「鳥」取県構想】は、鳥取県を表す一番わかりやすいキーワードとして「鳥」を改めて深堀し、その可能性を探りました。鳥取県のキャラクターであるトリピーを始め、これまでも「鳥」のアイデアはたくさんあったかと思いますが、まだまだ掘り下げる余地が残されていると考えます。「鳥の樂園」、「鳥食」、「企業コラボ」、「トリフェス」と4つのテーマにまとめました。

これらの2つの政策提言は、いよいよ来年度に期待されるアフターコロナ社会に対して、行政の皆様や、地域の皆様と共に産官学民、手を携えながら、私たちが愛する地域の未来を切り開いていくための大きな力になると確信しております。



令和4年度 鳥取商工会議所青年部
会長 平田 祐輔

提言 1

袋川公園化プロジェクト



提言1 | 袋川公園化プロジェクト

目次

1.	プロジェクトの背景	04
2.	袋川・桜並木の潜在力を引き上げる	05
3.	袋川エリアを新たな「公園」として捉え直す	06
4.	プロジェクトの概要	
	許認可関係	07
	実現に向けて	08
5.	袋川公園を中心に様々なビジネスが繋がる3つの利活用シーン	
	①街の店舗と連携ができる公園	09
	②イベントと連携ができる公園	10
	③ビジネスチャンスが生まれる公園	11
6.	袋川を中心に文化・教育・環境が繋がる4つの利活用テーマ	
	①「鳥取らしさ、袋川らしさ」⇒ 郷土愛を感じる公園	12
	②「学びを得る、披露する場」⇒ 水質改善の実験場として	13
	③「桜・景観の良さ」⇒ 環境保全と映えスポットの同時進行	13
	④「愛される公園」⇒ 多世代が寄り添う公園へ	14
7.	街の皆さまからの応援の言葉(令和5年3月7日現在)	15

提言1 | 袋川公園化プロジェクト

1. プロジェクトの背景



鳥取市においては、中心市街地の活性化について二核二軸の都市構造を踏まえたまちづくりを展開されており、その上で「街なか居住の推進」と「賑わいの創出」を図り、活性化の推進に取り組んで来られました。それでも、市民の意識としては「中心市街地の人通りが少ない、活気がない」などの声が多く聞かれ、「都市機能の充実」や「観光交流等の促進」により来街者を増やすとともに、経済活力の向上を促す基盤整備が求められています。

以上のような都市計画の方向性を念頭に二核二軸の図を改めて見直すと、「駅前商業ゾーン」と「久松山・文化教育ゾーン」の2つの円の結節点には袋川があり、袋川が様々な課題解決のキーストーンであることが浮かび上がってきます。また、袋川の快適性の増進が、2つの円に向かって波及的な改善効果をもたらすことは容易に想像ができます。

袋川に沿うように伸びる桜並木は長い間、地域住民の憩いの場所であるとともに、花見や紅葉シーズンでは多くの来街者も訪れる観光スポットでもあります。そして、他の都市に見られる機能的な都市公園のない本市中心市街地においては、袋川が緑地公園としてその代わりを担う可能性が考えられます。ですが、そのためにはさらなる都市施設を充実させる必要があるでしょう。また、「街なか居住の推進」にとって公園機能の充実はその後押しとなるとともに、周辺の小さな店舗との連携が叶えば「賑わいの創出」も期待できるでしょう。「中心市街地の人通りが少ない、活気がない」に対する解決策としても適していると言えます。

本提言では、二核二軸の扇の要とも言える袋川に焦点をあて、袋川や桜並木にもともと備わっている潜在力を「公園化」によって引き上げるとともに、これまでの都市計画を否定せず、その上に積み上げる手法を提案の骨子としています。風景のすべてを新しく作り変えるのではなく、的確な改修により効果の最大化を狙い、持続可能なまちづくりとして継承される提案としています。



提言1 | 袋川公園化プロジェクト

2. 袋川・桜並木の潜在力を引き上げる

袋川に沿って伸びる遊歩道はウォーキングやジョギング、犬の散歩などで利用される方も多く、春には花見客で賑わう憩いの場所です。本提言の骨格は街の宝であるこの桜並木を今よりももっと有効活用し活性化につなげることです。



遊歩道脇にあるベンチに座ると、桜は頭上にあり目前には商業施設などが並ぶため、長時間過ごすための快適性を得るためには、もう少し考える余地があるように思えます。

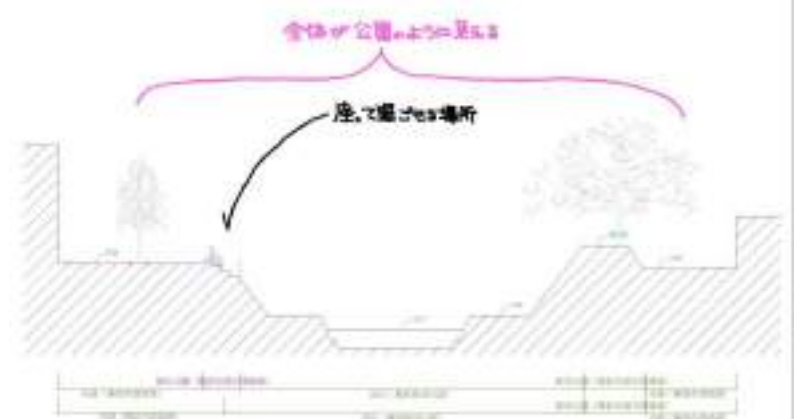


反対に桜の対岸側に座って過ごすことができる場所があると、桜並木の素晴らしいパノラマが目前に広がり、袋川の新鮮な空気のなかで家族や友人たちと快適に過ごすことができます。



遊歩道では今までどおり桜の下を楽しみながら歩くことができ、対岸からは桜並木の広がりを見ながら歩くことができ、この場所では休憩して過ごすことができます。

従来の直線的な往来に、面的に回遊する楽しさが加わることで、川や桜並木が持っている、人を惹き付ける潜在力が引き上げられます。また、この場所で生まれる回遊性は、周辺の街を歩くための補助線として機能し様々な波及効果を促します。



提言1 | 袋川公園化プロジェクト

3. 袋川エリアを新たな「公園」として捉え直す



桜の対岸側に座って過ごすことができる場所があると、桜並木の素晴らしいパノラマが目前に広がり、袋川の新鮮な空気のなかで家族や友人たちと快適に過ごすことができます。

そういった場所が、どこでも気軽に座ることのできる階段状にデザインされることで、桜並木を楽しむ多世代の人々がたまたま隣同士になり出会い、ふれあい、それがまたこの地域の暮らしに還元されます。「隣り合って街に座る」体験から、街と川と人々による新しい歴史が作られます。2~3人掛けのベンチでは、たまたま隣合うことがないため、暮らしや歴史に繋がるように促すことが難しいと考えます。

人々の行き交う姿や滞在し交流する姿が、これまでになかった風景として街や川、桜並木と重なり、公園のような情景を作り出します。袋川全体が公園として捉え直され、幅広く活用されることが期待できます。

また、川と桜並木を往来する人々が同じ空間を共有し、様々な形で活用していくことで、土地への愛着や共同体意識が育まれます。総じて「街なか居住の推進」や「賑わいの創出」を図り活性化の推進政策につなげることができます。



提言 1 | 袋川公園化プロジェクト

4. プロジェクトの概要 | 許認可関係

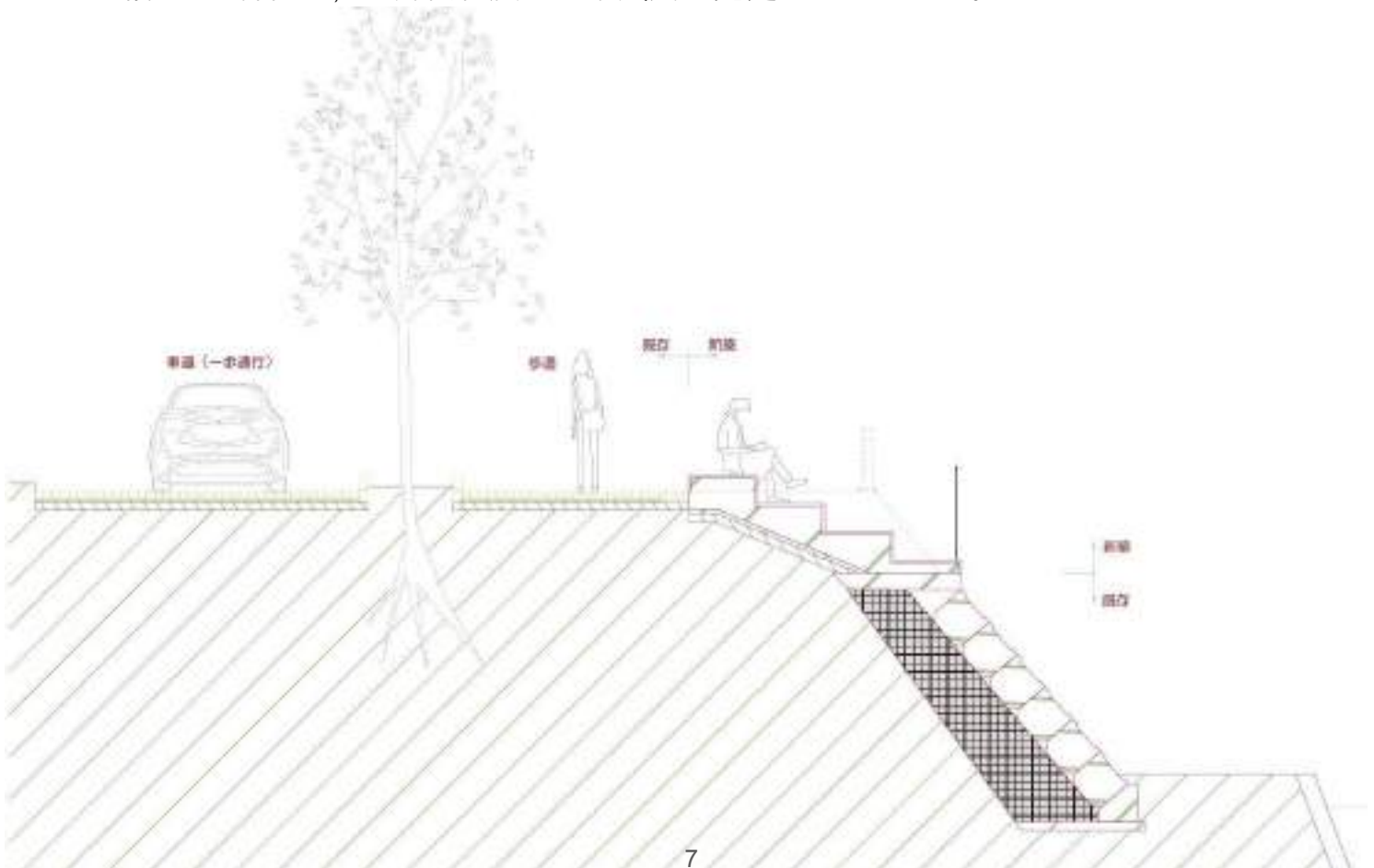
どこでも気軽に座ることができる階段状の休憩スペースでは、桜並木を楽しむ多世代の人々がたまたま隣同士になり出会い、ふれあうことができます。それは2~3人掛けのベンチでは得ることができない経験となります。

本計画ではまず、二核二軸に沿うように計画し、袋川に沿って二軸を繋ぐ若桜橋からきなんせ広場までのエリアで考えます。

断面図で示されているとおり、河川ブロックの天端コンクリートより上部を、既存の土木ブロックから階段状のコンクリートへ置き換えます。下部の河川ブロックそのものの改修は相当の構造強度が必要なため相応の費用が掛かります。河川ブロックの天端コンクリートより上部ですと一般土木強度を満たせばよく、費用を抑えることができます。予め、鳥取県土整備事務所維持管理課とのヒヤリングを済ませており、構造強度を含め、河川法による河川断面の形状変化の有無が許認可において重要であり、本件の場合、実施図面での精査は必要だが現状問題なかろうと確認頂いております。

また、同維持管理課の許認可において、実施図面での精査とともに基礎自治体である鳥取市の施設管理が必須条件となります。つまり、天端コンクリートより上部で計画し、鳥取市が施設管理をすれば許認可が下り整備工事が進行できます。

前述したとおり、天端コンクリートより上部ですと一般土木強度を満たせばよく費用を抑えることができます。よく見かけるコンクリート製の公園ベンチと同じように一般コンクリートで整備した場合、3,000万円程度の工事費用を見込んでおります。



提言 1 | 袋川公園化プロジェクト

4. プロジェクトの概要 | 実現に向けて



今回の整備費用に係る財源スキームをご提案致します。

本計画地は川外通りに位置しており、近隣には川内通り、若桜街道アーケード、瓦町・智頭街道アーケード、きなんせ広場といずれもアスファルトではなくインターロッキングが敷かれ、美観的観点のほかに歩行空間としての快適性が計画されているエリアです。本計画でも桜下の遊歩道との一体的な計画を目指し、まちなかの回遊性の増進を企図しています。そういった都市計画に対する助成金として、「まちなかウォーカブル推進事業」があり、認定などの条件はありますが利用することができます。(図9-1参照)

予算の半分が助成されるため、残りの財源をどのように考えるかですが、「鳥取市」と「鳥取県」に半分ずつの拠出をご提案させて頂きたく存じます。(図9-2参照)

また整備主体に関して、この街のキープレイヤーである「鳥取本通商店街振興組合」様へ呼びかけさせて頂いたところ、理事会様より、実現するのであれば整備主体として是非引き受けたいとの回答を得ております。

整備後、鳥取市へ寄贈が成され鳥取市の管理施設となり、運営は我々「鳥取商工会議所青年部」が様々なハブとなり、鳥取市、鳥取本通商店街振興組合をはじめとした各商店街組合、周辺の自治会及び周辺店舗、中心市街地活性化協議会の皆様などの連携を促す役割を担いたいと考えております。(図9-3参照)

まちなかウォーカブル推進事業の創設 (都市再生整備計画事業の拡充)

国土交通省

○都市再生整備計画事業等において、車中心から人中心の空間に転換するまちなかの歩ける範囲の区域における、道路・公園・広場等の既存ストックの修繕・利活用を重点的・一体的に支援する事業。

事業主体等 【交付金】市町村、市町村都市再生協議会 【補助金】都道府県、民間事業者等
国費率：1/2

施行地区
①都市再生整備計画事業の施行地区、かつ、
②まちなかウォーカブル区域 (周辺環境整備に係る事業を含む)

対象事業

- ウォーカブル空間整備
 - 道路、公園、広場等の既存ストックの修繕・改良
 - まちなかウォーカブル区域を充実する周辺環境の整備 (例) 遊歩道の舗装化、バリアフリー環境の創出、公共空間の緑化・高緑化、等
- アイルレベルの刷新
 - 対象地域の1画部分をリノベーションし、市民と関わりを深めることによる公共空間の提供
 - 1画部分の修繕と等の修繕整備 (例) 近隣地区の1画部分の修繕、市民と関わりを深めることによる公共空間の提供、等
- 滞在環境の向上
 - 「滞在環境整備事業」を新たに創設事業として創設
 - 滞在環境の向上に資する環境カオスリファインメントによる必要と施設等の整備
 - 滞在環境整備に関する社会実験やコーディネート等の調査 (例) 社会実験の実施、デザイン検討・利用施設の導入、等
- 景観の向上
 - 景観整備の改善 (例) 外観修繕、利用施設の整備、道路の美観化、等

図9-1



図9-2

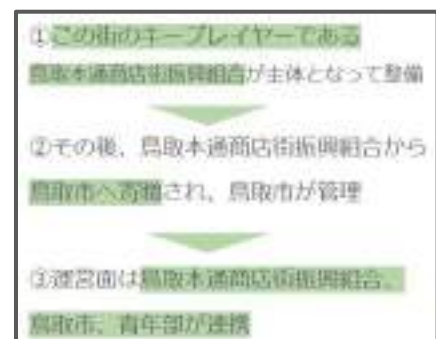


図9-3

提言 1 | 袋川公園化プロジェクト



5. 袋川公園を中心に様々なビジネスが繋がる3つの利活用シーン

施設整備をゴールとせず、計画段階から利活用シーンを想定しておくことで、前時代的な箱物整備となることを避け、街を行き交う人々に寄り添う公園として機能することを目指します。また、この街を形成してきた二核二軸の基本理念に倣い、利活用シーンをビジネス面と文化教育面とに分けて考えることで、この街に将来に渡ってフィットするような公園施設を計画することができると思います。

①. 街の店舗と連携ができる公園

近隣にはテイクアウトできる商品を取り扱う飲食店が多数営業されているため、屋外の飲食スペースとして活用されることが期待できます。

また、周辺にある店舗は比較的小さな店舗が多く、客席が少ないため満席になりやすく商機を逃す傾向にあります。この公園があれば、店舗が満席の場合でも機会損失を防ぐことにもつながります。

座ってくつろぐ場所が新設されれば、街の滞在時間そのものが伸びるため、立ち寄る店の数が増えます。行き交う人々の回遊性が向上し街全体への波及効果が期待できます。



提言 1 | 袋川公園化プロジェクト



5. 袋川公園を中心に様々なビジネスが繋がる3つの利活用シーン

②. イベントと連携ができる公園

袋川周辺では多くのイベントが季節ごとに開催されています。これらイベントではしばしば、飲食スペースが足りないとの声を耳にします。座って過ごすことのできるこの公園は、大勢の人々が飲食スペースとして利用できます。

- ・桜まつり
- ・花見シーズン
- ・しゃんしゃん祭
- ・花のまつり
- ・木の祭り
- ・川端蚤の市
- ・土曜夜市

また、フリーマーケットなどのイベントスペースとしても利用できます。

現在、サンロードで開催されている「因幡のお袋市」は袋川に由来するため、サンロードと交互に開催することも可能です。

一年を通してイベントができるスペースとなれば、賑わいが継続し、人々が集まる定番の場所になることが期待できます。



提言1 | 袋川公園化プロジェクト



5. 袋川公園を中心に様々なビジネスが繋がる3つの利活用シーン

③. ビジネスチャンスが生まれる公園

街の中心部にある桜並木をパノラマで楽しむことができ、市内有数の歓楽街に隣接するこの公園では、様々なビジネスチャンスが期待できます。

春のお花見シーズンでは、日中の花見客はもちろん、夜の宴会までライトアップされた夜桜をパノラマで楽しむことができるでしょう。昼夜通してキッチンカーや屋台が並び、弥生町のお店からはおつまみをテイクアウトし、近隣の居酒屋さんからビールがサーブされる、桜の楽しめるビアガーデンのような場所となるでしょう。また日置桜酒造様と協力して“日置桜”ガーデンとすると一風変わった雰囲気を楽しむことができます。

春だけでなく、夏には川涼みをしながら、秋には紅葉を楽しむビアガーデンとなるでしょう。

道路使用許可に係る出店賃料などは、川畦の草刈りをすると賃料が無料になるなど、昨今の「道路使用許可についての弾力的運用」を利活用できると川的美観を保ちながら公園を維持できます。



提言 1 | 袋川公園化プロジェクト



6. 袋川を中心に文化・教育・環境が繋がる4つの利活用テーマ

公園のビジネス面での利活用シーンに加え、文化教育面での利活用テーマを考えます。利活用されている街の風景そのものが、文化(Culture)・資産(asset)・遺産(Legacy)として次世代へと根付くことを期待します。

①. 「鳥取らしさ、袋川らしさ」⇒ 郷土愛を感じる公園



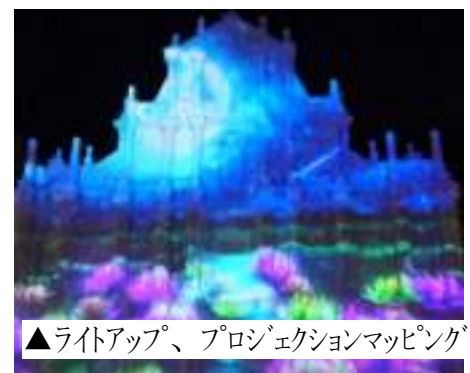
地元小学校の子どもたちの様々な学びの場として利用される袋川の様子を考えてみます。それはたとえば、袋川の生態系を学ぶ生物の課外授業の場として、あるいは川の水質が改善できるような理科の実験場として利用されることも考えることができます。

袋川は、鳥取大火により多くの事物が消失したこの街において、歴史を語ることのできる貴重な遺産です。有識者による歴史や文化に関する講演会がこの川辺で開かれてもいいでしょう。また、写生大会が開催され桜を描く子どもたちが並んで座っているだけでこの街の雰囲気や印象は変化し始めます。

子どもたちだけでなく、様々な文化や芸術を楽しむ河川公園として機能できるとより素晴らしいでしょう。たとえば、日中はいつでも演奏可能な場所とし、街なかで気軽に音楽を楽しめ、賑わいの創出に繋がります。



▲砂像づくり体験



▲ライトアップ、プロジェクションマッピング

提言 1 | 袋川公園化プロジェクト

6. 袋川を中心に文化・教育・環境が繋がる4つの利活用テーマ



②. 「学びを得る、披露する場」⇒ 水質改善の実験場として

住民有志の活動により、袋川の水質は以前より随分と改善されました。その貴重な活動をこれからも継承し、より豊かな自然公園を作ることはできないでしょうか。ここでは水質改善の実験場として地元の小学生たちが活躍する場面を想像してみます。日進小学校は弥生橋から若桜橋までを牡蠣殻を使った水質改善、遷喬小学校は若桜橋から智頭橋までを水生生物多様性による水質改善と、小学校ごとにエリアを設けて水質改善の実験をし、公立鳥取環境大学の監修による街を使った理科の大実験が行われます。

子どもたちの創意工夫を川辺の通りから見守ることができるこの公園では、これまでになかった交流が生まれ、この街が新しく変化する兆しをもたらすでしょう。



③. 「桜・景観の良さ」⇒ 環境保全と映えスポットの同時進行(1)

桜はこの街の宝です。ソメイヨシノの寿命はおよそ80年と言われ、桜土手の桜の樹齢はその寿命に近づくものが多いようです。袋川・桜土手がより公園のようになり利活用されることで、保全活動を行いやすくなります。

公園利用等による収益金の一部を保全活動に利用することも提案致します。



▲フォトコンテスト、スタンプラリーなど

提言 1 | 袋川公園化プロジェクト

6. 袋川を中心に文化・教育・環境が繋がる4つの利活用テーマ



③. 「桜・景観の良さ」⇒ 環境保全と映えスポットの同時進行(2)

より関心の集まる利活用として、真教寺公園のヤギたちによる雑草対策を提案します。毎年恒例の河川敷の雑草対策をヤギたちが担います。業者が刈り取ると産業廃棄物である雑草は、ヤギたちにとっては食料です。黙々と食べている姿は街の利用者にとっての癒やしとなり、街なかで動物と触れ合える新しいスポットとして期待できます。袋川公園のマスコットの存在として話題になるでしょう。



■畦を中心に雑草が群生している状態。



■真教寺公園のヤギがマスコット

④. 「愛される公園」 = 多世代が寄り添う公園へ

この地域の住民が気軽に過ごす以外に、本通り・若桜街道は現在、中学生、高校生たちが登下校に行き交っており、彼らが放課後に過ごす居場所として利用されるでしょう。また、遊歩道は現在、地域の住民たちがウォーキングやジョギング、ペットの散歩などで利用されています。この公園はその休憩スペースとして利用されるでしょう。保育施設が点在しているエリアでもあるため、子育て世代の公園利用も考えられます。

多くの世代が行き交う場所に、気軽に座って過ごす公園が出来上がります。どこでも気軽に座ることのできる階段状にデザインされた公園では、多世代の人々がたまたま隣同士になり出会い、ふれあい、それがまたこの地域の暮らしに還元されます。「隣り合って街に座る」体験から、街と川と人々による新しい歴史が作られます。まず日常的に過ごす利用者が増え、徐々に来街者が増加し、街並みに活気が伝播していきます。



提言 1 | 袋川公園化プロジェクト

7. 街の皆さまからの応援のお言葉(令和5年3月7日現在)



「現実的で良く練られた素晴らしい提言だと思う。ぜひ実現させましょう。」

■ 鳥取県議会議員 坂野経三郎 様

「ポストコロナに向けて、このような若者のアイデアを活かして取り組んでほしい。」

■ 鳥取県議会議員 常田賢二 様

「本プロジェクトにより『袋川』が各種イベント等の開催においても、有効なスペースとして活用されることを期待します。」

■ 鳥取市議会議員 岡田信俊 様

「10年かかってでも、景観の改善に取り組みたい。ぜひ実現したい。」

■ 鳥取市議会議員 加嶋辰史 様

「川端通り、花見橋通りの若い店主さんたちが喜ぶだろう。活気が出る。」

■ 鳥取市議会議員 米村京子 様

「袋川を憩いの場所として再生することの意義は大きく、商店街振興組合としてもバックアップします！」

■ 鳥取市商店街振興組合連合会 代表理事
新鳥取駅前地区商店街振興組合 代表理事 真嶋茂 様

「商店街の賑わいにつながるかもしれない。やってほしい。」

■ 瓦町商店街振興組合 代表理事 高住洋一 様

「この事業だけに終わらず進めてほしい。袋川全体が公園のようになってほしい。」

■ 智頭街道商店街振興組合 代表理事 中村隆 様

「面白いプロジェクトだ。水質改善への取組に繋がると良い。整備主体も引き受ける。」

■ 鳥取本通商店街振興組合 代表理事 高橋俊夫 様

「素晴らしいアイデアだと思う。ぜひ実現させてほしい。商店街も協力します。」

■ 若桜街道商店街振興組合 代表理事 山縣勇太郎 様

「様々な障害があるだろうが乗り越えて挑戦してほしい。見守ります。」

■ 袋川をはぐくむ会 会長 栗島道和 様

(順不同)

提言 1 | 袋川公園化プロジェクト

7. 街の皆さまからの応援のお言葉(令和5年3月7日現在)



「ウォーカブルな街づくりのために、本提案は非常に有効です、応援いたします。」

■株式会社まるにわ 代表取締役 齋藤浩文 様

「鳥取市のためにぜひ実現してほしいです。応援しています。」

■株式会社パレット 会長 常村護 様

「地域住民として応援します。商店街の賑わいにつながると思う。」

■五臓圓薬局 森下章 様

「人と人とのつながりが生まれ、街の人たちに愛されるスポットになることを期待しています。」

■アートスペースからふる 様

「地域の店舗として良い取り組みと思う。応援します。」

■ツジ商店 様

「年代問わず利用でき、目的がなくてもぶらりと立ち寄れる。そんなゆったり癒しスポットの存在はまちに人を呼び戻すきっかけとなるでしょう。楽しみにしています。」

■金居商店(鳥取YEG) 様

「テイクアウト利用のお客が増えるので近隣の店舗は助かるし出店も増えると思います。」

■森の生活者 様

「お散歩する方が増えてとても良いと思います。」

■アースファミリー鳥取店 様

「とても良い考えと思う。地域の住民として応援しています。」

■ブロッサムデコ 様

「公園のようになることで回遊する方が増えると賑わいが出て良いと思います。」

■フォトステージヤマウチ 様

(順不同)

提言1 | 袋川公園化プロジェクト

7. 街の皆さまからの応援のお言葉(令和5年3月7日現在)



「人々が歩いてまわってのんびりゆったり佇める街中袋川沿い♪ 実現しますように！」

■ 農楽ttoria山猫軒 様

「地域を元気にし、人々をつなげる場、楽しみにしています。」

■ 録沢哲雄税理士事務所 様

「これはいい！みんなが【まあい】気持ちになれる袋川公園化プロジェクト！最高！！応援しています。」

■ まあいコーヒー 様

「こういった取り組みが本当に実現するといい。移住して出店される方も増えそうですね。楽しみに待っています。」

■ tottoriカルマ 様

「桜の美しい袋川を盛り上げてほしい。OBとして応援しています。」

■ 阿部珈琲 様

「老若男女が楽しめる公園、ぜひ実現して欲しい！」

■ NOLLY&THE NATURES(鳥取YEG) 様

「新しい街のスポットとして期待してます。」

■ santana cotoya 様

「できれば桜を眺める新しいスポットになるので、利用したいです。」

■ borzoi record 様

「市庁舎も移転し、街も寂しくなっている。若い人たちが街のことを考えて動いてくれるのは良いこと。応援しています。」

■ 吉田一陽堂薬局 様

「商店街の賑わいにつながることで、応援しています。」

■ 土井製菓 様

(順不同)

提言 2

「鳥」取県構想



提言2 「鳥」取県構想 目次

1. 構想の背景	20
2. 鳥類の楽園「鳥」取県	21
3. 県指定の鳥類保全スポットを作り鳥をより身近な存在に	22
4. 美味しい「鳥」食の都へ	23
5. 企業とのコラボレーション	25
6. 鳥の祭典トリフェスの開催	27

提言2 「鳥」取県構想

1. 構想の背景

近年鳥取県では、地域振興の一環として「蟹取県」や「星取県」、「宙取県」と、県名と絡めたさまざまな角度からの鳥取の魅力の掘り起こしが行われてきました。この取組によって、地域の名物や価値あるものを県内外にアピールでき、大きな経済効果につながっていると感じます。今回視点を変えて、これまでの鳥取にすでに存在している価値ある素材を探し出すというものから、「鳥」をテーマにして新たな価値や魅力を創造していくことはできないだろうかとの議論を重ねました。

鳥取県の名前は、飛鳥時代のころ、鳥取市久松山付近に鳥取部(ととりべ)と呼ばれた、鳥を取る役目を与えられた人びとが住んでいたことに由来するということに着目しました。このことは意外と鳥取県民でも知らない方が多いと感じます。「鳥を取ること」がこの地域の原点と考え、提言のテーマに据えることにしました。

現在では、鳥取県というと砂丘やカニや梨、最近では星などの名物がありますが、鳥については西部には米子水鳥公園があるものの、東部地域では大きな名物やスポットは特になく、認知が低いように感じました。しかし、鳥について調べていくといろいろな潜在的な資源があることがわかってきました。

令和4年11月初旬に千葉県我孫子市への視察訪問を実施しました。千葉県我孫子市は、手賀沼と利根川に挟まれた水辺の都市で、多様な鳥類が生息することから鳥類研究が盛んな地域です。そこで日本唯一の鳥の博物館や鳥をテーマにした日本最大級のイベント「ジャパンバードフェスティバル2022」を視察しました。

視察した「ジャパンバードフェスティバル」は、コロナ禍で規模を縮小した開催であったものの、8,000人/日の来場者が集まる盛況なイベントでした。イベントのブースでは、バードウォッチングや鳥の写真、ペット、鳥グッズなど幅広いジャンルがあり、奥の深いこだわりが感じられ、お客さんである鳥愛好家の皆さんも、一見静かですがとても熱のある方々だと肌で感じることができました。

バードフェスティバルはとても素晴らしいイベントでした。鳥類研究が盛んな我孫子市のイベントだけあって、野鳥鑑賞、保護の色合いが濃く感じられました。野鳥の魅力はもちろん素晴らしいですが、別な角度で鳥の様々な魅力を掘り下げていくことで「鳥」取県ならではの独自性が生まれるのではないかと考え、調査活動を行い、4つのテーマをもつ「鳥」取県構想を作成しました。



我孫子市「鳥の博物館」展示



視察メンバー



出展ブースの様子

提言2 「鳥」取県構想

2. 鳥類の楽園 「鳥」取県

鳥取県内には市街地から近いところにクマタカ、オシドリ、オオルリなどといった貴重な鳥が生息している場所があります。また、県東部の若桜町は国の天然記念物に指定されているイヌワシの生息地です。このように鳥取は野鳥の宝庫であり、千葉県我孫子市に負けない潜在力があると言えます。



鳥取県のマスコットキャラクター トリピー

“鳥取市の鳥” オオルリ

美しい鳴声で知られており、ウグイス、コマドリと並んで日本の三鳴鳥と言われている。春から秋にかけて鳥取市内全域に生息している。



“鳥取県の鳥” オシドリ

日野町根雨はオシドリの越冬地でもある。日野町を流れる日野川には、秋から春先にかけて多い時には1000羽以上のオシドリが飛来する。

“森の王者” クマタカ

県内全域に生息しているが、森林開発等にもなって、生息環境の破壊や餌となる動物の減少が進み、個体数が減少しているとみられる。

“天然記念物” イヌワシ

北海道、東北から中部、中国地方の日本海側を中心に生息。イヌワシは両翼の長さが2mに達する雄大な鳥。

提言2 「鳥」取県構想

3. 県認定の鳥類保全エリアを作り 鳥をより身近な存在に



県西部には、全国的にも知られている米子水鳥公園や日南町のオシドリ観察小屋があります。県東部には、八東ふるさとの森や湖山池、知る人ぞ知る鳥が集まるスポットとして、多鯰ヶ池、水尻池、殿ダムなどがあります。



多鯰ヶ池



湖山池



殿ダム

鳥の生態系を守るために、県認定の鳥類保全エリアを指定し観察できる場所を限定し、そこを訪れた誰もが鳥と適切な距離感を保ちながら触れ合える場所として整備していくことが必要です。一例として、県の認証マークを設けた野鳥の観察小屋(東屋)、鳥の探索マップ(案内板)を設置してみてもはいかがでしょうか。



野鳥の観察小屋

鳥類の楽園を守るためには、森を守り育てることが必要です。現在の環境を壊すことなく、また今後どのように自然を育てていけば鳥が集まる地になるか、鳥類に関わる識者の意見を取り入れながら考える必要があります。著名な鳥類研究家の川上和人氏や写真家の戸塚学氏を招いてシンポジウムを開催することも一案と考えます。



野鳥マップ(イメージ)

提言2 「鳥」取県構想

4.美味しい「鳥」食の都へ



鳥取県 にわトリピー

🐔 美味しい鳥が食べられる「鳥」取県 🐔

🐔 県内産鶏肉、鶏卵を全国にアピール 🐔

鳥取県には「鳥取地どりピヨ」や「天美卵」など、美味しい「鳥」が豊富。
美味しい鳥を食べるなら鳥取県産の鳥食材を！

鳥取県は都道府県別鶏肉消費量ランキングで10位にランクインしており(令和2年総務省統計調査結果「家計調査結果」)、鳥取県民がいかにか鶏肉を愛しているかがうかがえます。その中には当然地鶏も含まれており、鳥取県民が愛する地鶏は全国でも人気となる高いポテンシャルを秘めています。

全国的に知名度の高い地鶏といえば三大地鶏の名古屋コーチン、薩摩地鶏、比内地鶏。それぞれの成功事例に習い、鳥取の地鶏も全国レベルに飛躍させていきたいと考えます。鳥取県に観光へ行く場合、食についてはおそらく蟹のイメージが強く、それを目的とすると基本的に冬になってしまいます。季節に関係なくおいしく食べられる鶏をPRしていくことで、1年を通して鳥取県を観光客に訴求していくことができます。

また、ブランド卵である天美卵は観光客誘致にも一役買っており、卵かけご飯お取り寄せランキングに選ばれ、さらに知名度を上げてきています。スイーツ等の商品展開も多数されており、地鶏に関しても観光客誘致のみならず、加工品の商品を展開することでお土産需要の底上げを図り、より高い知名度の向上を目指します。

🐔 鳥取の鶏をもっと身近に 🐔

【鳥取県産鶏肉使用店舗認証制度】の制定 🌟

有名地鶏はそれを専門に扱うお店も多く、また名古屋コーチンは手羽先、比内地鶏は鍋等、イメージがしやすい代表的な食べ方があります。その点、鳥取県の鶏は固定化された食べ方のイメージがないため、店舗それぞれの個性豊かなメニューの展開が考えられます。

認証店制度を導入することにより、店舗側は地産地消をPRでき、消費者側も安心安全な地鶏をおいしく楽しむことができます。専門店ではなく認証店にすることで、地鶏以外を目的に来店した消費者も鳥取県の鶏料理に出会う機会が増えると考えます。これにより、例えば蟹を目当てに来た消費者にも、鶏に触れる機会を増やすことができ、鳥取は海産物だけでなく美味しい鶏料理も楽しめる地域であることを県内外にアピールすることができます。

【地鶏】

鳥取地どりピヨ

【銘柄鶏】

大山産がいなどり
大山産ハーブチキン
大地のハーブ鶏
大山どり

【ブランド卵】

天美卵
養麗卵



提言2 「鳥」取県構想

4.美味しい「鳥」食の都へ

【認証店による鶏料理・卵料理フェス】の開催🌟

「鳥取県産鶏肉使用店舗認証店」による鶏料理・卵料理フェスを開催することで、鳥取鶏料理のポテンシャルを鳥取内外に広くアピールできます。近年、フードフェスは大きな集客を得られるコンテンツとなっており、各所で様々なテーマに沿ったフェスが開催されています。

美味しい「鳥」食の都、「鳥」取県でチキンフェスを開催すれば、大きな話題となり、観光客誘致の起爆剤となるのではと考えます。



【鳥取地鶏料理レシピ開発・鶏料理・卵料理コンテスト】の実施🌟

鳥取県は鶏肉消費量10位にランクインしており、さらに地元産の鶏肉への愛着が深まれば、地産地消の機運が高まり、消費量拡大にも貢献できます。鳥取市においては令和元年から3年の一世帯当たりの鶏肉消費量で全国6位(県庁所在地・政令指定都市内)となっており、全国平均より3キロ多い結果となっています。(総務省統計調査結果「家計調査結果」令和元年～令和3年平均)

鳥取の家庭では多くの鶏肉が食べられており、きっとそこには家庭独自の鶏肉料理レシピが存在しているのではないのでしょうか。それをレシピ化し共有して、新たなレシピ開発も促進、さらに鶏料理コンテストを実施することで、より地元の鶏肉に愛着をもつことにつながり、地鶏の消費拡大にとどまらず、「多種多様な鶏料理」＝「鳥取の文化」のひとつであるというシビックプライドの醸成も図られます。



【鶏ソムリエ制度の創設・認証店へ配置】🌟

鳥取県のお隣の兵庫県新温泉町浜坂では本場の上質の蟹を提供するため研修を重ねて認定される「蟹ソムリエ」制度を設けています。

認証店に鶏のスペシャリストである「鶏ソムリエ」を配置することで、質の高い鳥取の鶏を消費者に提供します。



5.企業とのコラボレーション

【コラボレーションで地域活性化のトリガーに】🌟

「鳥(とり)」にちなんだ著名人、企業、商品などとコラボレーションすることによって、話題性が高まり、鳥取への誘客効果や知名度向上につながります。また、コラボレーションによって、その企業と鳥取とのつながりができ、地元企業との関わりなども生まれることで、今後の地域経済の活性化も期待できます。

コラボ1



鳥山明(集英社)×「**鳥**」取県

- ・ペンギン村と姉妹都市
- ・県立美術館で鳥山明特別展を開催



鳥取県ペンギン村
※AIが作ったイメージ

コラボ2



トリスハイボール(サントリー)×「**鳥**」取県

- ・アングルトリスとトリピーのスペシャルコラボ(缶)
- ・鳥の祭典トリフェス限定販売



コラボ3



ケンタッキーフライド**チキン**(日本KFCホールディングス)×「**鳥**」取県

- ・カーネル・サンダースとトリピーのコラボ
- ・鳥の祭典トリフェス限定販売



鳥の祭典限定フィギュア
※AIが作ったイメージ

コラボ4



ガンダム(バンダイナムコ)×「**鳥**」取県

- ・アムロ=レイ(鳥取出身?)とトリピーのコラボ
- ・鳥の祭典トリフェス限定コラボ

コラボ5



トリオ芸人のロ**バート**(吉本興業株式会社)×「**鳥**」取県

- ・ロバートとトリピーのコラボ、コント、PRイベント
- ・ロバートが地鶏を使った鶏料理を紹介

コラボ6



すもう**とり**(日本相撲協会)×「**鳥**」取県

- ・お相撲さんとのコラボイベント、PRイベント
- ・鳥取の「鳥」を使ったちゃんこ鍋レシピ開発
- ・日本相撲協会「ハッキョイ!せきトリくん」と「トリピー」のコラボイベント
- ・コラボ新ゆるキャラ「すもうトリくん」の作成



5.企業とのコラボレーション



コラボ7

鳥貴族(居酒屋) × 「**鳥**」取県

・トリキに「鳥」取県コラボメニューの開発



コラボ8

名**鳥**(取)裕子 × 「**鳥**」取県

・女優名取裕子さんをキャスティングした2時間サスペンスドラマの誘致



コラボ9

香**鳥**(取)慎吾 × 「**鳥**」取県 × 「**トリ**」ックアート

・タレントでアーティストの香取慎吾さんに「鳥」コラボしたトリックアート作成



コラボ10

トリンプ × 「**鳥**」取県

・天使のブラ、恋するブラに続く、はばたくブラ商品開発拠点誘致



コラボ11

ニ**トリ** × 「**鳥**」取県

・鳥取の木材を活用した、低価格高品質な家具商品開発



コラボ12

トリドール × 「**鳥**」取県

・コラボメニュー「鳥取のタルタル鶏天うどん」開発



コラボ13

鳥海浩輔 × 「**鳥**」取県

・「刀剣乱舞」で人気の声優鳥海浩輔さんと鳥取の城郭や刀剣とのコラボ企画



13のコラボアイデアを検討しました。これは一例であり、「鳥」というキーワードでつながる企業・団体・著名人の連携は無数に存在します。この連携は鳥取に新たな縁をつくり、関係人口を生み出します。その可能性は無敵大です。

また、ウクライナ侵攻が長期化し台湾有事も懸念される現在。平和の象徴である「鳥」をテーマに据えることで企業イメージも高まり、鳥取は平和のまちであるというブランディングにつながり、平和な世界の推進にも寄与することでしょう。



🐦鳥の愛好家が集まる「鳥」取県🐦

【鳥取県版バードフェス・鳥の万博の開催】🐦

千葉県我孫子市で開催されるバードフェスは野鳥の保護と観察がテーマとなっています。鳥取県版バードフェスでは、野鳥だけでなく、インコやオウム類など家庭で飼育されることの多い鳥にも焦点を当て、我孫子市とは違った視点での鳥達との共存を考えるイベントとし、より鳥好きな人がたくさん集まる地域をめざします！

- ・ **鳥類学者**による基調講演
鳥と人との共存を、自然環境、飼育方法、食文化など様々な視点から考えます。
- ・ **小鳥**専門医による飼育に関するセミナー
全国的に小鳥を専門とする動物病院は少なく、小鳥は病気になっても専門治療が受けにくい状況にあります。小鳥を専門とする獣医師による飼育セミナーを開催することで、鳥飼育愛好家を集めます。
- ・ **写真家**による**鳥**撮影のレッスン
鳥類を専門とする写真家による講義を行うことで、野鳥・バードウォッチング愛好家を集めます。

・ **鳥**キャラ祭りの開催

鳥取県では鳥ゆるキャラの始祖であるトリピーが地元民から愛されています。全国から鳥モチーフのゆるキャラを集めることで、鳥ゆるキャラの聖地を目指します。



・ 全国の**鳥**モチーフ雑貨・グッズの即売会

我孫子市バードフェスティバル
メイン会場入場口



我孫子市バードフェスティバル
鳥に関する書籍販売ブース



・ 開催地の候補

会場として、多くの鳥類を観察できる湖山池周辺や、自然豊かな殿ダムを候補として考えます。

湖山池
ナチュラルガーデン



殿ダム中央広場



あとがき

令和4年度、鳥取YEGは、『袋川公園化プロジェクト』と『「鳥」取県構想』とテーマを2つに絞りました。

提言することがゴールではなくスタートであるという意識のもと作成に当たり、今後の展望に期待が持てる【量より質の】、青年経済団体のみならず、行政・民間企業・学校(学生)など様々な方が幅広い解釈で取り組み、将来的には自走できるプロジェクトを生み出せたと考えております。それは、我々が提唱し、多くの効果が様々な箇所に波及していった『星取県構想』のように。

当初『袋川公園化プロジェクト』は、年度の前半での提言を目標に掲げておりました。しかし、公園化に向けたハード面の改良だけでなく、ソフト面の利活用方法を始めとして課題分析や問題をブレークスルーする方法を委員会メンバーで共に考え、そして、地域のステークホルダー様に色々なご意見などを伺えば伺うほど、この袋川エリアはこの地域で生活している鳥取市民にとって大切な場所であり、中心市街地のランドマークで、まさに鳥取のアイデンティティであると改めて気づかされました。こうした中で、もっと議論を熟成させるべきだと時期を延ばし、この度の提言に至ったその判断は間違っていなかったと自負しております。

また、『「鳥」取県構想』は蟹取県や星取県など、過去の面白い取り組みを振り返りながら「待てよ？ここは鳥取県だよな？」蟹や星のように、既に価値があるものを、より世間に周知・浸透させていく地域振興も良いが、プラスα、新たな価値をゼロから作り、プロモーションすることで、浸透・定着・発展させることができれば、莫大なビジネスチャンスと高い経済効果を生み出せるのではと考えました。また、学術的価値を高めながらも、地域を発信する機会、自然環境の保護を啓発し、持続可能な地域を創生する機会がそこにあるのではと、鳥取YEG全体で真摯に議論を重ね、提言書を取りまとめました。この提言も「星取県」のように、新たな商品やイベントが創出され、星が宇宙産業へと繋がっていったように、より高度な次元へ変貌を遂げていくことと期待しております。

この度の提言に当たり、今後実現に向けて我々はより一層努力を積み重ねてまいります、自助努力だけでは夢は夢のまま終わってしまうことでしょう。

鳥取県・鳥取市様が今回の提言の趣旨に賛同していただき、官民一体となり連携をはかり、この提言を強固に推進していくことができれば、この鳥取の地に明るい未来が待っているのだと信じています。

是非とも、今回の2つの提言に、ご理解・ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

最後に、今回の提言書作成にあたり、大変多くの方々にご協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。



令和4年度 鳥取商工会議所青年部
副会長 森下 大輔